

Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

九州医療センター



院長PROFILE

森田 茂樹(もりた・しげき)

1980年九州大学医学部卒業。

1986年南カリフォルニア大学附属病院心臓外科、1989年ピッツバーグ大学外科、1992年九州大学心臓外科、2008年佐賀大学胸部心臓血管外科教授、2014年佐賀大学病院院長、2016年九州医療センター副院長を経て、2018年同センター院長に就任。
所属学会：日本心臓血管外科学会(理事)、日本胸外科科学会(評議員)、日本循環器学会(社員)、日本人工臓器学会(評議員)、日本外科学会、日本移植学会、米国胸外科科学会

九州医療センター DATA

■所在地

福岡県福岡市中央区地行浜1丁目8番1号
<http://www.kyumed.jp/index.html>

■病床数

702床(一般650床、精神50床、感染症2床)

■診療科目

内科(総合診療科・代謝内分泌内科・血液内科・膠原病内科・免疫感染症内科・腎臓内科・高血圧内科・腫瘍内科)／精神科／神経内科(脳血管神経内科・脳血管内治療科)／呼吸器科／消化器科／循環器科／リウマチ科／小児科／外科(消化管・肝胆膵・乳腺)／整形外科／形成外科／脳神経外科／呼吸器外科／心臓血管外科(心臓外科・血管外科)／小児外科／皮膚科アレルギー科／泌尿器科／産科／婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／気管食道科／リハビリテーション科／放射線科／歯科／歯科口腔外科／麻酔科／救急科／臨床検査部／病理診断科

■研修の特色

プライマリ・ケアを基本に、総合的診療能力を身に付け、患者さんの立場に立った医療が提供できるように指導します。毎年20～30名の初期研修医を受け入れており、同級生が各地にいるという強みがあります。また、300名を超える修了生が各分野で活躍しているため、ネットワークが広がります。臨床研修や臨床研究にも力を入れており、すべての診療科での研修が可能です。



MARK IS 福岡もち

九州医療センターのある街

グルメで人情味あふれ、それでいておしゃれな人も多い街

人口約145万人を有する福岡市。その中心で九州一の繁華街といえば、多くの人が知る天神だ。今泉にあった菅原道真の水鏡天神を、福岡藩主・黒田長政が福岡城の鬼門封じのために現在の地に移したのが「天神」という地名の始まりだそう。

地下には全長590mの天神地下街があり、ファッション、グルメなど約150店舗がひしめく。19世紀のヨーロッパをイメージしてデザインされており、とてもおしゃれで落ちついた雰囲気が良い。また、ここは地下鉄天神駅と直結しており、アクセスが非常に良い。

福岡といえば食べ物。安くて美味しいと評判な

病む人に寄り添い、安全で最適な医療を患者さん、医療スタッフからも選ばれる病院に

当院には42の診療科があり、医師数は研修医を含めて約280名で、ベッド数702床は国立病院機構のなかで3番目の規模です。今年で開院25周年を迎えましたが、九州でも大学病院にも引けをとらない有数の総合病院となりました。

現在「働き方改革」が全国の医療施設で進行中ですが、当院ではいち早く2018年6月から研修医の救急部の夜の勤務体制を当直制から夜勤制に変えました。夜間勤務の後は休日とし、オン・オフをはっきりさせるためです。2019年3月からは研修医以外の医師も大部分が勤務制に移行します。医療の質と量の低下につながらない「働き方改革」を積極的に進めています。

私自身はピッツバーグ大学で心臓や肝臓の移植に携わっていましたが、17時になるとポケベル(PHSがない時代でした)が鳴りやまず、一睡もできない勤務でした。でも、朝7時になると潮が引くように静かになりました。日本では経験したことがないようなハードな当直でしたが、あと少し頑張れば休めると思うと耐えられるものだと感じました。忙しい夜間の勤務は若いうちに経験しておく必要があると考えているので、研修医の皆さんにはまず夜の救急を頑張してほしいと体制を整備しているところです。救急車の台数は昨年に比べて3割増の約4000台になり、今後も救急医療の強化に努める方針です。

冒頭に述べましたように、救急以外の診療も充実しています。内視鏡室、心カテ室、放射線治療室、手術室はフル稼働の状態です。2018年の

手術件数は5699件で、今年手術室を1室増やすので6000件を目標にしています。ダヴィンチ手術も泌尿器科、消化器外科、呼吸器外科、婦人科で行われており、2019年5月には累積500例に達する予定です。その他の診療科も全国でトップレベルの医療を提供しており、福岡都市圏の最後の医療の砦としての機能を大学病院とともに担っています。

当院は「病む人に寄り添って安全かつ最適な医療を提供します。」という基本理念を掲げています。複数の診療科、多数の職種が一人の患者さんにコミットし「寄り添う」ことを徹底しています。診療科の高い専門性と、多くの医療スタッフを患者さんのために束ねるチーム医療を推進するために、組織横断的にカンファレンスやセミナーが毎日のように開かれています。職員にとっては自己研鑽の場が大きく開かれていると思います。

今からキャリアアップをしようとしている若いスタッフの人たちには、是非、自分が「面白い」と思うことを早く見つけてほしいと思います。自分が選んだ診療科あるいはライフワークになるようなテーマが「面白い」と思えば、苦しいことがあってもそれを乗り越えられ、私自身の経験から確信しています。いろいろなことに「面白い」と取り組んでいると、周囲からの依頼や問い合わせを受け取ってまた勉強するというポジティブフィードバックがかかり、どんどん実力が上がっていきます。九州医療センターにはそのようなチャンスがあらゆる人に開かれている職場だと思います。病む人にも医療人にも選ばれる病院に、当院をしたいという思いで毎日頑張っています。



メディカルコーディネーターセンター(入退院等窓口)



患者図書室



スキルアップラボセンター

